かがり火

発行所
〒542
大阪市南区中寺1-1-54
大阪社会福祉指導センター内
大阪府社会福祉協議会
従事者部会
発行人　石井　勲

復刊のごあいさつ

従事者部会長　石井　勲

このたび、従事者部会では、部会報の「かがり火」を再発行することになりました。三十三年におよぶ伝統をもつこの部会では、保育・児童・成人・老人の各部会から選ばれた常任委員が中心になって各種福祉施設の現状の研究、従事者の処遇改善、福利厚生等の活動を展開しております。

先輩の諸先生によってつくられた「かがり火」は、長らく途絶えていましたが、常任委員の皆さんの熱意によって、再び日の目を見ることになりました。それは、現在実施している部会活動の内容を、多くの従事者に知ってもらうためであり、また各種の行事に一人でも多くの参加を期待しているからであります。

常任委員の活動として、民間共済会の福利厚生事業にたいして、積極的に協力をしております。共済会の充実と発展は、施設従事者の処遇安定につながっています。

この部会報を通じて、従事者意識を高め、相互の理解により、新しい時代にふさわしい社会福祉の担い手となれるようにしたいと思います。

（高津学園）

21世紀に向けて

大阪民間社会福祉事業従事者・共済会
常務理事　畑中　豊作

先人曰く「福祉は人なり」と。世代の新旧を通じて味わいの深い言葉だと思います。制度がどのように変ろうとも福祉を支えるのは人の心であり、とりわけ対人関係を通じて直接処遇に拘わる施設従事者の方々の役割はおおきいと痛感します。

昭和五十六年に大社協従事者部会の関係各位のご努力により、先輩社会事業家の文集「足跡」―あとにつづくもののために―（A5判一七〇頁）が発刊されました。

未熟な当時の社会福祉の苦難時代を、人間愛をもって貫いてこられた先輩福祉人の貴重な体験が述べられており、読み返してなお胸の打たれる思いです。

このたび、部会報「かがり火」の発刊は、今日の情報社会における大量伝達手段として敬意を表します。とともに従事者の方々には、このマス・メディアを通じて、より豊かな創造・協調性が培われ二十一世紀福祉の進展に寄与されることを念じます。併せて部会報のたゆみないご発展を切にお祈りします。

復刊に寄せて

大阪府社会福祉協議会
事務局長
井上　光

「かがり火」の復刊、おめでとう。長い間常任委員会で懸案になっていた話題が、いよいよ実現の運びになるまでの経緯を思うときに、部会長はじめ委員各位の決断に敬意を表したい。

「従事者部会三十年のあゆみ」（近代化研究四十四号）をあらためて読み返してみた。「かがり火」として発行されたのが、吉村部会長のとき。従事者部会が結成されて、その組織固めに、とくに原則論の議論を繰返していた部会活動に、実践を優先させようという試みがいろいろ行なわれた時であった。

大谷寿夫さんが編集長の役を引き受けて、私も委員の一人として武内茂子さんや柳川落穂さんらと編集に参画した頃を思い出す。とにかく従事者部会の認識を一人でも多くの仲間に持ってもらって、民間施設の発展向上に役立てようという心意気で当たっていた。しろうとがあでもない、これがいいと時間の経つのを忘れて紙面作りをしていたものだった。

当時の民間施設従事者の待遇を思えば、今日隔世の感は免れないが、大きな変化に遭遇しようとしている施設福祉にどのように対応して行くのか、従事者一人ひとりの課題として捉える必要があろう。これが新しい福祉体系を完成させる道であり、従事者の役割であるとも言えよう。

「かがり火」が、こんな方向への指標となって、従事者の心の灯になってくれることを切に祈りたい。

木漏日

「かがり火」が復刊されることになった。第1号が発刊された昭和32年当時は、従事者の処遇向上のために、厚生省、大阪府に対し様々な要求や運動がなされ、従事者部会も熱気溢れる活動を展開していたと聞く。

しかし部会発足以来30数年経た今でも、従事者部会の存在すら知らない施設従事者が多い。全国でも大阪だけに存在するユニークな部会で、他に類似したものがないことも一因だろうが、施設従事者への広報活動の不備が大きな原因であると思われる。そういった意味でも、今後の「かがり火」に期待したい。大阪の施設従事者も一万人を超える大世帯となり、益々「かがり火」の果たす役割は大きくなったと思う。

今、社会福祉の制度が大きく変わろうとしている。その中にあっても、従事者部会が対象者の処遇向上を基盤に、従事者の処遇と資質向上、福利厚生のために社協の他の部会と連帯して活動していけたらと思う。

（正）

═特集═

常任委員が語る『従事者部会』

〝部会活動〟

佐藤　貞江
（赤坂台保育園）

従事者部会の事業の一つとして、民間共済会の福祉事業に対する協力にレクリエーション活動も年間で計画されている。中でも今年度十二回を数えた体育祭は各部会から一、二〇〇人近くが松下体育館に集合し、健脚（？）を披露し楽しむ。部会に依り施設数が異るので当然の様に数の多い保育が他部に比べ群を抜く参加者である。設営、司会進行は福利厚生委員と従事者部会常任委員の男性が担当しぶっつけ本番の競技に部会別応援合戦がくりひろげられる。部会同志が対抗し合い、お互いの声援たるや凄いものであるが、従事者としての意識を高め、部会の存在を知る機会であり、又部会としての活動を認識、反映される場でもある。

ちなみに焼そば、たこ焼の模擬店は女性委員が担当している事も報告しておく。

従事者部会のこれから

松出　初正
（大阪自彊館愛隣寮）

福祉施設で働く者は、私も含めて、自分の施設内のことのみにしか、目が向かない傾向があるように思える。

ノーマライゼーションが叫ばれてもう久しく、今後ますます地域社会における福祉の拠点としての施設の役割が期待される中、施設従事者としては、少なくとも他業種の施設が、どのような問題を抱え、日々どのような事業を展開しているのかを、正しく理解しておく必要があるのではないだろうか。

全業種の従事者が、一堂に会せる唯一の場である従事者部会では、月一回の定例会の度に各施設から研究発表を行い、幅広く福祉の動向が把握できるよう努めてきている。

これからもこのような活動をさらにおしすすめ、時代のニーズをいち早くキャッチし、研究を深め、その成果を各施設へフィードバックできるようなものへと発展することを期待する。

従事者部会の役割

上利　久芳
（聖家族の家）

従事者部会の会員の多くにとって、この部会が唯一の各業種別を超えたものであろうかと思います。また従事者部会そのものも、この点に大きな存在意義があると考えます。

しかしながら、会員の属する全ての業種に於ける共通点は「人間」を対象としていることです。我々は深い人間理解と自己の人間としての成長をベースに、児童や老人等の処遇にあたることが重要です。その意味では、児童のことしか知らない児童施設の職員、老人のことしか知らない老人施設の職員といった「――しか」理解出来ない職員はやはり人間についてのトータルな理解・認識に欠けていると言えます。従事者部会の主催する研修会は、この点の理解・認識を深めるよう、従事者一人一人が自己完結的なものに終始することなく、各委員の「公的性」が互いに発揮できるように取り組む努力も必要と感じております。

またこの様な志向で、常任委員会も委員会そのものが自己完結的なものに終始することなく、各委員の「公的性」が互いに発揮できるように取り組む努力も必要と感じております。

編集後記

約25年のブランクを経て再発刊することができました。優れた先輩諸氏の築かれた「かがり火」に少しでも近づきたいと部会常任委員一同考えております。

当時の「かがり火」が、従事者部会で開催する研修の成果を『愛される部会報として広報したい』という目的で発刊されたことの伝統は是非今後も引き継いで行きたいと思います。

発刊号ということで、紙面は少々堅苦しい内容になりましたが、今後は出来るだけ会員の皆様にとってわかりやすく、親しみやすい紙面づくりに心掛ける所存です。また会員の皆様からの投稿も歓迎いたします。

従事者部会常任委員名簿（敬称略順不同）昭和62年3月現在

	〈児童施設〉				〈保育所〉	
◎	高津学園	石井　勲		1	あやめ保育園	橋本　真
2	聖家族の家	上利　久芳		2	たちばな保育園	原　桂子
3	四恩学園	吉積　寛		3	ひしの美東保育園	永原　静子
4	愛育社	沢藤　敬		◎	赤坂台保育園	佐藤　貞江
5	泉ケ丘学院	朝川美知恵		5	堺めぐみ保育園	渡井恵美子
6	信太学園	御厨　知行		6	豊野保育園	荒川　珠子
◎	南河学園	伊山　喜二		7	清和保育園	篠原　涼枝
8	若江学院	福永　亮碩		8	キリン保育園	藤　幾久子
9	太子学園	山出　巧			〈成人施設〉	
10	健康の里	内村　芳昭		◎	みなと寮	大西　豊美
11	救世軍希望館	前田　徳晴		2	布施救護院	杉本　良夫
12	レバノンホーム	池永　浩造		3	高槻温心寮	久保ツヤ子
	〈老人施設〉			4	大阪自彊館	松出　初正
◎	とりかい白鷺寮	園田　謙雄		5	大阪自彊館	宮部　尚親
2	四天王寺悲田院	河野　正文		6	生野学園	林　功
3	泉ケ丘園	易本　清忠			〈母子寮〉	
4	ミスプール記念ホーム	鐘ケ江　徹		1	八尾母子ホーム	荒井　恵一
5	あかつき特別養護老人ホーム	蛇草　真樹		2	夕陽丘母子寮	白山　陸夫

（◎印は部会長、○印は副部会長）

なつかしい〝かがり火〟

再び照らす従事者の指標

柳川　落穂（大仙保育園）

再び燃え上がった炎！うれしいですね。期待しています。

全国の社協組織に例をみない大阪独自の誇るべき従事者部会！

「何とか従事者相互の理解を深め、親しい関係を作りたい」と、昭和二十九年度部会創設時からご活躍の第二代松田恵一氏（当時・大阪共同募金会）と古閑慶之氏（当時・朝日新聞大阪厚生文化事業団）のユニークな正副コンビの時に、部会報が発刊されたのです。

その後、三十二年度に、部会最大の飛躍時代を築かれた第七代吉村敏生氏（大阪自彊館）は、つぎつぎ開催された研修の成果を「愛される部会報として広報したい」と会員から名称を募集。大島千恵子さん（当時・さかえ保育園）の〝かがり火〟が従事者の行く手を照らし、心の灯を燃やし続けようということで入選しました。

公務員の半分位しか給料がなかった時代。協力団体・施設長・従事者が一つになって「予算獲得運動」を展開。汗だくで八ミリ映画も撮影され〝かがり火〟と題して上映、大好評でした。

〝かがり火〟は三十六年度、第九代山本清氏（当時大阪老人ホーム）の十五号まで続きました。

常任委員になったばかりの私は、初めて手がける編集の仕事に、同じ編集委員だった井上光大社協事務局長（当時・愛育社）をはじめ委員の皆様から、編集整理、レイアウトなど学びながらがんばりました。

後に、大阪の「先輩社会事業家の足跡文集」「部会三十年のあゆみ」をまとめた時にも、諸先輩から昔に変わらぬ温かい支えをいただきました。協力・希望・喜び・感謝など、私たちはこうして育くまれたのです。

今、復活する〝かがり火〟！私の心の灯も再び燃え上がる思いがします。

当時の「かがりび」の紙面

朝日・サンケイ・毎日

さらにお力添えを

―三新聞社の事業団

養護施設に勤めて三十年余、当時始めて参加した研修会が従事者部会の総会（研修会）であったと思う。その時にもらった従事者の部会報「かがり火」何時からか途絶えていた。

その頃から続いている行事に民間社会福祉施設従事者感謝激励会は今年三十六回を迎えた朝日・サンケイ・毎日新聞社の厚生文化事業団（社会事業団）の主催・共催によるもので従事者の一員として毎年楽しみにしていた。

従事者部会が大社協施設部会の一部会として活発な活動は昭和四十五年頃から大阪民間社会福祉事業従事者共済会が現在の姿になりそれまで従事者部会が助成を頂きながら運営していた福利厚生事業も共済会事業へと移行した。また施設の対象児・者も慰問・諸行事等で三新聞社の厚生文化事業団（社会事業団）に支えられて来た面も大きい。

現在、従業者部会の独自の行事として従事者セミナー「集団指導者養成教室」は、本年で第十回を迎えた「サンケイ福祉の船」等の行事や対象者の日々のプログラム活動での、実際に動けるリーダー養成の為にと、サンケイ新聞・大阪新聞厚生文化事業団より助成を頂いております。

スキー教室「スキー同行会」は公徳学園山田先生・白彊館吉村先生がお世話下さったものを従事者部会行事としてお預りしてからでも十二年同じくサンケイ新聞より助成を頂き仲間との親睦を深め明日の活力を養なっています。

長い間のご援助に恩謝すると共に、さらにお力添えをお願いします。

沢藤　敬（愛育社）

コーラス部員募集!!

ふるって参加しませんか。

・練習日　毎月第二、四水曜日
　午後6～7：30
・場所　夕陽ケ丘保育所（地下鉄谷町線、四天王寺駅下車）
・指導　山本佳人先生（大阪芸術大学）

盛りあげよう

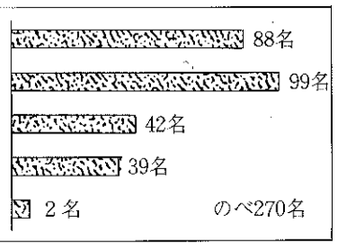
集団指導者養成教室

部会唯一のセミナーとして、グローバルな知識の吸収とグループワーカーの養成等を目的として作られ、今年で八年目を迎えた。

開会式では、毎年歴代のサンケイ・大阪新聞厚生文化事業団の事務局長に挨拶を頂いているが、一貫して施設職員の人間性の狭さを訴えられ、「今年度は、広い視野をもってほしい、先見力を養ってほしい」と話され、閉会においては、目的をもって行動してほしい、自分を意識づけるためにも自己暗示をかけてほしい、と結ばれた。

我々の仕事は対人間であり、困難さが常につきまとうものである。それを克服するためにも自己啓発が必要であろうし、このセミナーがその一助となっていることを確信している。

今回はのべ二七〇名の参加者があり、施設の種別の参加状況は左図の通りであった。



昭和61年度集団指導者養成教室実施表

回	期日	場所	時間	科目および講師	参加者
1	6月16日(月)	指導センター大阪社会福祉	10時～12時	(1)開講式 (2)「大阪の社会事業の昔と今」大阪府社協　事務局長　井上　光氏	53名
			1時～4時	「体験学習」―現場でのコミュニケーション―　聖ヨハネ学園　施設長　伊藤　昭氏	
2	6月27日(金)	ションセンター岩崎レクリエー	10時～12時	「救急法その1」「救急法その2」レバンンホーム　施設長　笹川岩男氏	67名
			1時～4時	「水泳指導の実際」財団法人　健康管理・開発センター　業務課体育主任　長崎博昭氏	
3	11月21日(金)	指導センター大阪社会福祉	10時～12時	「社会教養講座」サンケイスポーツ新聞社　編集局次長兼運動部長　田村定彦氏	80名
			1時～4時	「ゲーム指導の実際」大阪府レクリエーション協会　公認指導員　宮崎良雄氏	
4	11月25日(火)	指導センター大阪社会福祉	10時～12時	「精神講座」―心の持ちかた、ありかたについて―　淀川キリスト教病院監事　宮嶋泰夫氏	70名
			1時～4時	(1)「職場における人間関係」聖マーガレット生涯教育研究所長　西川真哉氏 (2)閉講式	

参加者の声

最終日の参加者に「集団指導者養成教室」についてのアンケートを書いていただきました。その中で全回参加された人の書かれた内容の一部を紹介します。

(1)「良かった点」について

・ゲーム指導の実際の研修はとても良かったと思います。自分自身もすごく楽しかった。（保育所保母）

・頭を使ったり、体を動かしたりして、大勢の人と楽しく出来たことが良かったと思います。いろんな事が勉強になったと思います。（児童施設保母）

・職場における人間関係、特に講演形式によるばかりでなかった点がよかった。（成人施設保母）

(2)「研修会についての注文」

・回数が少なすぎたのではないでしょうか。もう少し多く、もっといろんなことをやってもらいたかった。ゲーム指導など、内容をまとめてもらいたかった。（保育所保母）

・午後だけの研修または、午前中だけの研修もあればもっと気軽に参加できるのではないかと思います。（児童施設保母）

・職場における人間関係など、特に時間的な制約が強く充分な深いふりかえりができなかったので、宿泊の研修等があってもいいのでは。（成人施設保母）

(3)「来年度への希望」

・ゲーム指導、もっと新しいものを取り入れて欲しい。（保育所保母）

・各施設の中のこんなことをしているという、声をきける場があればいいんじゃないかと思います。（児童施設保母）

・今年度と同じでよい。（老人施設指導員）

・大学で習う様な講義は必要ない。現場をよく知った講師（現場の一線で働いている人）の話が大切である。（成人施設指導員）

・保育所等、子供を対象にしたゲームが多かったので幅広い年令層でもできるものを取り入れて欲しい。（成人施設保母）

（貴重なご意見をどうもありがとうございました）

母子寮って どんなとこ

母子寮は、児童福祉法第38条に「配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童を入所させてこれらの者を保護することを目的とする施設とする」と規定され、寮では、死別・離別した女子や未婚の母といった法的に婚姻関係のない女子、また、夫の行方不明や遺棄、夫からの逃避など、実質的に婚姻関係がないのと同様な状態にある女子が、その子供と共にくらし、自立することを目標にしています。しかし、今日の社会の複雑化は、母子が抱える問題をも複雑にし、母にとって経済的・精神的負担はさらに大きくなっています。

こういう状況の中、寮は単なる住宅提供や貧困対策としてでなく、子供の保育や養育を助け、母の精神的支えとなり、母子がよりよい生活を送り、再び生きていく意欲をつかむきっかけをえる場として、重要であると考えられます。数少ない施設ですが、今後とも少しでも多くの人に理解いただければと思います。